

研究タイトル：

効果的な外国語指導方法の研究



氏名：	臼田 悦之／USUDA Yoshiyuki	E-mail：	usuda@hakodate-ct.ac.jp
職名：	教授	学位：	修士(教育学)
所属学会・協会：	北海道英語教育学会, 全国英語教育学会, 外国語教育メディア学会, 全国高等専門学校英語教育学会, 全国語学教育学会, 函館英文学会		
キーワード：	タスク, TBLT, CALL, MALL, ICT, AI, 英語教育, 英語科教育法		
技術相談 提供可能技術：	<ul style="list-style-type: none"> ・タスク開発 ・CALL システムの環境整備 ・ICT を活用した外国語指導 		

研究内容： EFL 環境における効果的な英語教育の研究とタスク研究

1. Tasks

授業で行うコミュニケーション活動にタスクを取り入れることで、教室に主体的・対話的で深い学びが起こり、学習者に動機づけを与える可能性があると考えられる。タスクは 1) meaning, 2) some kind of gap, 3) own resources (linguistic and non-linguistic), 4) a clearly defined outcome の要素を含んでいることが条件となるが (Ellis, 2003)、従来の production tasks が難しい場合は interpretation tasks から始めることができるので、言語リソースが少ない学習者に対してもタスクを活用することができると考えられる。そのようなインプット・ベースのタスク開発も今後の研究課題である。

2. Task-Based Language Teaching (TBLT)

情報化やグローバル化が人間の予測を超えて加速している現在、世界で生き抜く術を身に付けるべく主体的・対話的で深い学びの視点から学習過程の改善が求められている。そして今や日本も小学 4 年生から外国語活動として英語教育が始まり、大学入試は 4 技能を測定することとなり、日本の英語教育は大きく変わろうとしている。Communicative Language Teaching (CLT) の流れを汲んでいる教授法の TBLT は、“an approach based on the use of tasks as the core unit of planning and instruction in language teaching” (Richards & Rodgers, 2001) と定義することができ、第2言語習得研究の知見よりシラバスの構成単位としてタスクを用いることになっている。文法シラバスが主流の日本の英語教育においては、教育方法の転換点である今、主体的・対話的で深い学びに親和性があるとも言われる TBLT の導入の可能性を今まで以上に検討する必要があると考えられる。

3. Computer-Assisted Language Learning (CALL), Mobile-Assisted Language Learning (MALL)

CALL は LAN 接続の Computer Laboratory と Audio-Visual System が統合された CALL ラボまたはマルチメディア・ラボの形が多く、学習者に多様な Learning Style を提供し、face-to-face teaching との併用 (Blended Learning) で効果的な指導が展開されてきた。今後は、スマートフォンなどのモバイル機器の活用と AI の導入でいかに個人個人に合った最適な学習方法を提供していけるかが研究の焦点となる。

4. ICT-supported Learning

ICT を活用した授業は学習者に動機づけを与え、それまでの授業方法を大きく変えた。今後は、AI を活用した学習の研究が進むことで、今までにないスタイルの指導や学習の可能性が広がると考えられる。

【Reference】

- Ellis, R. (2003). *Task-based Language Learning and Teaching*. Oxford: Oxford University Press
 Richards, J. C., & Rodgers, T. S. (2001). *Approaches and methods in language teaching* (2nd ed.). Cambridge: Cambridge University Press.

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)